

第2学年 国語科学習指導案

平成27年11月13日(金)第5校時

授業者 和田 ゆかり

1. 単元名

せつめいのしかたに気をつけて読もう
分かりやすくせつめいしよう

2. 教材名 「しかけカードの作り方」 「おもちゃの作り方」

3. 指導の立場

「しかけカードの作り方」は、作り方の作業手順について解説した手順書で実生活に大変近い文章である。大きく「材料と道具」「作り方」「使い方」の三項目に分けられている。そして、手順を示す場合に、文章だけでなく写真も効果的に使って示されている。したがって児童は、叙述にそって作業を進めながら、写真をよく見たり、文章と結びつけて丁寧に読んだりすることによって理解が深まっていくであろう。

「しかけカードの作り方」では「分かりやすい説明の仕方の工夫を見つける」という活動を行うが、次の第三次ではその工夫を使って、自分でおもちゃの作り方の文章を書くことになる。つまり習得した力を活用するという単元の構成になっている。

児童は、「たんぼぼのちえ」で、順序に着目して説明的な文章を読む経験をした。本教材では、初めて「手順を読む」経験をすることになる。ここで手順の読解を行った後、「おもちゃの作り方」で、児童一人一人が自分のおもちゃの作り方を書く活動につなげる。「手順ごとに書かれた文章を読む」ことで理解した文章の工夫を、第三次の書く活動で確かめ、定着させることになる。

児童の説明文を読み取る力は、「たんぼぼのちえ」で、挿し絵を手がかりにしながら、順序を示す言葉に着目して、たんぼぼの4つの知恵を大半の児童は読み取ることができた。ここでは、「手

順の流れ」を学習するので、作る順序にそった読み取り方を指導していきたい。

本単元では、第三次の「おもちゃの作り方」を書く活動を見通し、何を工夫すれば分かりやすく書くことができるのかをよく考えさせることが必要である。さらに、1年生に向けての説明書であるので、その面での配慮も必要である。そこで、実際にカードを作るという作業を伴う読み取りとともに、説明の仕方の工夫を一つずつ正確に読み取らせたい。それが、今後の「○○の作り方」「○○のしかた」など、生活科や学級活動など様々な場面で生かすことのできる、生活に直結した力になると考える。

4. 研究内容の視点から

○研究内容1に関わって

全13時間の単元指導計画である。第一次では、単元を貫く課題を知らせ、学習計画を立てる。第二次では、説明の仕方の工夫について学習する。第三次では、それまでの学習を活かして、自分で「おもちゃの作り方」の文章を書く活動を位置付けた。特に第三次では、個々の児童によっておもちゃが異なるので、個に応じた丁寧な指導を行う。

○研究内容2に関わって

交流の形態

作り方の文章全体を通しての説明の仕方の工夫の共通点を見つける学習であるので、児童によっては難しい学習であると考え。そこで、前時の掲示物に統一したマークを示し、それを手がかりに見つけさせる。また、考える時に助けとなるノートの書き方も指導する。各自で考えをまとめさせた後交流し、学年の段階も考慮し、教師が全体をまとめる形をとる。

深めの発問

説明の仕方で見つけた工夫がなかったら、手順通りに正しく作れるのだろうかと問いかけ、筆者の説明の工夫の大切さに気付かせる。

学習のまとめ

まとめで、説明の仕方の工夫の4点について児童から出ることが、第三次の学習に効果的につながると考える。そのため、板書を活用してそれらを押さえるようにする。

5. 単元指導計画

単元の指導目標

順序を考えて教材文を読み、説明のしかた仕方について考えることができる。(読イ)

○言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。(伝イ ウ)

説明の順序を考え、言葉のまとまりに気をつけながら文章を書くことができる。(書アイウエ)

○文章を読み返し、間違いなどを正すことができる。(伝イ ウ)

単元を貫く課題

1年生の友だちに、「おもちゃの作り方」の文章を書いて分かりやすく説明するために、「しかけカードの作り方」の文章を読んで、説明の仕方の工夫を考えよう。

次 時	ねらい	学習活動	筆者の説明の工夫	評価規準 (評価方法)
第一次	1 「おもちゃの作り方」の文章を書くという活動の見通しをもち、学習計画を立てることができる。	1. しかけカードの作り方という題名から考えられることを話し合う。 2. 写真を見て、しかけカードとは何か考える。 3. 単元のめあてを読む。 しかけカードの作り方の学習の進め方を考えよう。 4. 単元を貫く課題を知る。 5. 学習の見通しを立てる。	だい名	【関】単元を貫く課題を理解し、学習に対する意欲をもつことができる。(発言)
第二次	2 文章を読み、作り方の順序を調べ、見通しをもつことができる。	1. 本時の課題を知る。 カードの作り方を考えよう。 2. 写真を見て、何をしているのか話し合う。 3. 教師の範読を聞きながら、順序を考える。 4. 本文を読んで作り方を理解する。 5. 作り方のクイズを出し合う。	書かれているじゅん番 行替え 絵・写真と文をつなげる それぞれの文章のまとまりとの対応 じゅんじょをあらわす言葉	【読】しかけカードの作り方を写真と本文との関連で理解することができる。(発言・クイズの問答)
	3 文章を読みながらしかけカードを作ることができる。	1. 本時の課題を知る。 しかけカードを作ってみよう。 2. 文章を読みながら、実際にしかけカードを作る。 3. 自分が何度も読み直した所に鉛筆で線を引く。	じゅんじょをあらわす言葉 まず、つぎに、それから、こんどは、さいごに 絵・写真と文をつなげる	【読】文章を丁寧に読みながら、しかけカードを順序よく作ることができる。(作り方・文章への書き込み)
	4 文章を読み、段落毎に分かりやすかったところや言葉を見つけることができる。	1. 本時の課題を知る。 せつめいのくふうを、だんらくごとにを見つけよう。 2. P40 のてびきを読んで参考にする。 順序 写真との対応 注意すること 効果 3. 混乱しないように、1段落ずつ工夫を見つけ、全体で確認しあいながら読み進める。	しゃしんのように文のおわり 注意することと 気を付けることの別 数字 等 つながり言葉 効果 こうすると	【読】文章に線を引きながら、説明の工夫をいくつか見つけることができる。(発言・文章への書き込み)
	6 本時 しかけカードの作り方の文章を読み、説明の仕方の工夫を見つけ、まとめることができる。	1. 本時の課題を知る。 作り方のせつめいのくふうを見つけ、まとめよう。 2. 前時をふり返る。 3. どんな工夫があるか各自で考える。 4. 各自で見つけたことを交流する。 5. 教師がまとめる。 6. 深めの発問により、説明の仕方の工夫が大切なことが分かる。		【読】作り方の文章全体を見て、共通する工夫を見つけることができる。(発言・ノートへの記入)

	7	文章全文を通しての筆者の説明の工夫を見つけることができる。	1. 本時の課題を知る。 文しょうぜんたいをとおしてのくふうを見つけよう。 2. 全文を読む。 3. 前書き、材料・道具、作り方・使い方が書かれていることに気づく。 4. それぞれのよさを話し合う。	書かれているじゅん番 前書き 材料、道具 作り方 使い方	【読】文章全体を通しての組み立てに気づき、その工夫を見つけることができる。(発言・ノートへの記入)
第三次	8	おもちゃの作り方を書く学習の進め方を確かめることができる。	1. リード文を読む。 2. 本時の課題を知る。 おもちゃの作り方の学習の進め方を考えよう。 3. どうしたら書くことができそうか考える。 4. 本文を読んで書き方を考える。 5. 学習の見通しを立てる。		【関】おもちゃの作り方の説明書を書く学習に意欲をもつことができる。(発言)
	9	「おもちゃの作り方」の説明書の分かりやすい書き方を理解することができる。	1. 本時の課題を知る。 けん玉の作り方を読み、わかりやすいせつめいのしかたを見つけよう。 2. 本文を読む。 3. 文章の組み立てを考える。 4. それぞれにどのようなことを書くかといのか話し合う。 5. どのおもちゃについて書くのか考える。	書かれているじゅん番 前書き 材料、道具 作り方 使い方	【書】けん玉の作り方の文章を読み、説明書を書くために必要な事柄を集めることができる。(発言)
	10 11	おもちゃの作り方の説明書を分かりやすく書くことができる。	1. 本時の課題を知る。 おもちゃの作り方のせつめいしよを分かりやすく書こう。 2. 前書きを、教師から示された文章を選択して短冊に書く。 3. 材料と道具を短冊に書く。 4. 作り方を、1年生の友だちの反応を意識しながら絵とともに短冊に書く。 5. 遊び方を、教師から示された文章を選択して短冊に書く。	書かれているじゅん番 じゅんじよをあらわす言葉 絵・写真と文をつなげる 文のおわり することと気をつけることの区別 つなぎ言葉 こうすると～になります	【書】おもちゃの作り方の説明書を内容のまとまりを考え、手順にそって書いたり、絵と対応させたりしながら文のつながりを意識して書くことができる。(発言・短冊)
	12	下書きを読み、観点にそって書かれているか確認し、直すことができる。	1. 本時の課題を知る。 自分で書いたおもちゃの作り方を読みなおそう。 2. 短冊を声を出して読む。 3. 誤字脱字、読みにくいところをみつけ赤鉛筆で直す。 4. 説明の工夫が使われているかチェックカードを使って確認する。 5. 短冊を画用紙に仮止めする。		【書】自分で書いた文章を読み直し、間違いなどを直すことができる。(短冊)
	13	友だちと読み合い、感想を伝え合って直し、分かりやすい文章になるように清書することができる。	1. 本時の課題を知る。 友だちのせつめい書を読んでかんそうをつたえあい、せいしよをしよう。 2. 友だちのせつめい書を読む。 3. 直すところを教え合う。 4. 必要な短冊は書き直し、画用紙に貼って完成させる。		【書】友だちの文章を読んで、感想を言ったり、書き直したりすることができる。(発言・短冊)

6. 本時の展開(6 / 13)

(1) 本時のねらい

しかけカードの作り方の文章を読み、説明の仕方の工夫を見つけ、まとめることができる。

(2) 本時の展開

	ねらい	学習活動	教師の指導・援助
つかむ 【10分】	前時の学習内容から、本時の課題をつかむことができる。	1. 前時の学習内容をふり返る。 段落 <u>まず</u> 《しゃしんのように》<u>～します(すること)</u> (注意)長さは <u>ものさしで～ましょう</u> 段落 <u>つぎに</u> 《しゃしんのように》<u>～します(すること)</u> (効果)こうすると 段落 <u>それから</u> <u>～ます(すること)</u> 段落 <u>こんどは</u> <u>～します(すること)</u> (注意)～します 段落 <u>さいごに</u> 《しゃしんのように》<u>～します(すること)</u> (効果)こうすると 段落 <u>これで</u> 2. 本時の学習課題を確認する。 <u>作り方のせつめいのくふうを見つけ、まとめよう。</u>	・ 掲示物を示しながら、前時見つけたことを段落毎に想起させる。 ・ 時間はかかるが、次の学習へつなげる部分なので丁寧にふり返らせる。 ・ 掲示物は、教室北側に貼っておく。
さぐる 【25分】	説明の仕方の工夫をグループごとに話し合った後交流し、まとめることができる。	3. 各自で説明の仕方の工夫を話し合う。 1年生に分かりやすく説明するための工夫であることを理解する。 どの段落でも出てくる言葉や、書き方を見つける。 <u>じゅんじょをあらわすことば</u> <u>～します(すること)</u> 何度か出てくる言葉を見つけることができる。 《しゃしんのように》 (注意)長さは (効果)こうすると 4. 各自で見つけた工夫を発表し交流する。 5. 学級全体でまとめる。 子どもたちが見つけた工夫を教師が仲間分けする。	・ 読みのかぎ ・ 読みのかぎに気付かせるために掲示物のマーキングに着目させる。 ・ 考える時に助けとなるようなノートの書き方を押さえる。
深める 【5分】	順序を示す言葉があると、しかけカードを作る時、どんなよいことがあるか考えることができる。	6. 考えを深める。 <u>まず</u> <u>つぎに</u> <u>それから</u> <u>こんどは</u> <u>さいごに</u> <u>これで</u> の言葉があると、どんなよいことがあるでしょう。 ・ やることが、順番になっているのははっきりする。 ・ 一つ一つの作業が、きちんとできる。 ・ 作る時、分かりやすい。 ・ 順序を表す言葉があると、正しく作れる。 ・ 初めて作る人も、間違えないで作れる。	・ しかけカードを作る時には、手順が大事であることを理解させ、そのために筆者が説明の仕方を工夫して作りやすくしていることに気付かせる。
まとめ 【5分】	説明の仕方の工夫をまとめることができる。	7. 本時のまとめをする。 <u>せつめいのくふうは、いくつかあった。</u> 1つめは、<u>じゅんじょをあらわすことば</u>で順番がはっきりする。 2つめは、《しゃしん》を使って分かりやすくしている。 3つめは、<u>～しますのように、～すること</u>を書いている。 4つめは、「長さ」「こうすると」のように、よくなること が書いてある。 特に、1の<u>順序を表す言葉</u>と、2の《写真》を使っ ては、次の学習で自分たちが活用しやすいので、必ず見 つける。 8. 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	・ 板書を効果的に活用し、それを見てまとめる。 評価基準・評価方法 【読むこと】 作り方の文章全体で、共通する工夫を見つけることができる。 (発言・ノートへの記入)

【

】